

令和 6 年度 園評価・関係者評価書

1. 教育・保育目標

「こころ豊かに たくましく育つ子ども」 ◎明るく元気な子 ◎みんなと仲良くする子 ◎力いっぱいがんばる子

2. 本年度の重点目標

一人一人が自分らしさを発揮し主体的に遊び込める子どもをめざして
～いろいろな人や物とのかかわりの中で"子どものやってみたい"を実現するための環境の工夫～

3. 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況・改善の方策	評価
園 運 営	○職員の資質向上 ・実践的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	・今年度は、預かり保育担当職員の配置があり、全職員で職員会議をもつことが出来、日々の教育・保育、行事について、前年度の課題を検討し改善するなど密に話し合いながら進めることができた。 ・講師指導のもと園内研修を行い職員の資質向上に努め、園外研修にも参加し学んだことを職員で共有し、保育・教育に取り入れた。今後も、指導力向上に努めたい。 ・年度初め、園務について計画し、それぞれが責任を果たせるようにした。	B
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分にかかわって展開する生活の工夫 ○幼児の主体性を大切にした指導 ○幼児一人一人の発達の特性を踏まえた指導方法の工夫	・遊びを通して主体的に学べるよう、園児の興味や関心を探りながら、自己発揮や試行錯誤できる環境づくりに努めた。また、本園の園児数や特色を活かした内容・異年齢での関わりを深めていくなど、自園でしかできない細やかな保育を探りながら教育・保育を進めた。特に、異年齢での育ち合いを大切に、職員間で連携をとり、戸外でのチャレンジタイム(3～5歳児と一緒にルールのある遊びをする)や0～2歳児の合同保育などに力を注いだ。次年度もさらに自園ならではの良さを活かす活動を工夫していきたい。	A
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○一時預かり・延長保育の実施	・未就園児の園庭開放『かもつこくらぶ』を月2回開催し、温かい雰囲気の中で在園児とも交流できる内容を取り入れた。利用人数は少ないものの定期的に参加される親子もあり、園を知り親しみをもちていただく機会となったが、未就園児が減っている現状がある。 ・園児が主体的に遊ぶ様子を参観していただいた後の講師先生による「家庭教育講座」では、大勢の保護者が参加していただき、教育・保育の意図を理解し、家庭での子どもたちへの関わり方を見直してもらった機会となった。講座の意義を感じ、次年度についても検討していく。	B
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底 と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	・築年数が長く老朽化しているため、常に園内に危険な箇所がないか気を配り、気付いた箇所があれば、早急に、改善を図るようにした。 ・全職員の危機管理能力を高め、迅速に適切に対応できるよう、避難経路や場所を再検討し、早朝・預かり保育時間や未告知で防犯・防災の避難訓練を実施した。今後も、様々な場面を想定して行っていくたい。 ・今年度は、特に暑さが厳しく、熱中症対策として、タープやテントなどによる日陰作り、遊ぶ時間や時間帯への配慮、水分補給の徹底など、保護者のへの啓発も行い、健康に過ごせるように努めた。	A
道 徳 ・ 人 権 教 育	○幼児の体験や経験を通した、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さにふれる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気づきを育む環境の工夫	・ふるさと創造会議の方にお世話になり栽培の仕方を教えていただき、生長の様子を見たり一緒に収穫する喜びを味わったりする経験をした。自分達が世話をしたものを食す体験活動をこれからも大切にしていきたい。 ・ディサービス施設の高齢者の方に運動会の様子を見に来てもらったり、散歩中に触れ合ったりすることもできた。また、「ブランコ」さんによるお話の会での絵本の読み聞かせでは、様々な絵本に親しみ、豊かな感性を育む時間となった。 ・園で飼育していたウサギの餌当番や死を通して、思いやりの心や命の大切さを感じる機会となった。	A
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	・支援児の思いを十分に理解し、困り感に寄り添った援助や配慮を行った。また保護者と登降園時や連絡帳を通して情報共有を行い、家庭と園とが協力合せて園児の育ちを見守っていく体制をとった。関係機関とも連携を取り、園児の姿を共有しながら、個別の支援方法について相談したりアドバイスを受けたりしながら支援の仕方を探っていった。小学校職員との引き継ぎでは、支援してきた内容や有効な手立てなど、丁寧に行う。	A
家 庭 ・ 地 域 ・ 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○小・中・高との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○実習生の受け入れ ・人材育成の施設としての役割遂行	・園だより・保健だより・クラスだより・園長だよりの発信、幼児園ニュースの掲示を通じて、教育・保育活動の様子や意図を保護者に伝えるよう心がけた。 ・運動会は数年ぶりに3～5歳児合同で行い、大勢の方に参加、応援をいただき、温かい雰囲気の中で、園児が存分に力を発揮することができた。参観人数の制限がなくなったことで、大勢の保護者に参観や参加していただくことが増え園生活の様子を覗いていただけるようになった。 ・幼小連携講座を開催し、小学校の先生方に「遊びの中での学び」について知っていただき、幼小交流の場も多くもつことができた。中学生のトライやる、高校生の実習などを通して多様な人と触れ合える機会がもてお互いの学びとなった。	A

園名 加西市立賀茂幼児園

4. 自己評価方法の適切さについての関係者評価

・園運営について「B」と評価されているが、一般的に研修時間の確保が難しいと聞いている。これだけ充実した研修が出来ている。「A」で良いと思う。
・抑えつけるのではない自主性・主体性を育てておられる。支援児との関わりにおいても、先生の助言のもと、子どもたちが気付き、いろいろな園児が声をかけ協力している様子も伺えた。素晴らしい。

5. 評価の観点ごとの関係者評価

園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・「B」と評価されている理由は？ ➡園内で、職員がお互いに日頃の保育を見合い意見を出し合う研修をする機会が持てなかった。 ・昨年度も会議の難しさと指導力向上に努めたいとの課題があがっていたが、今年度、目標が目標で終わらず、達成に向けて取り組み、改善されているところが素晴らしい。運営の仕方は良かったのではないが。
・園での異年齢での遊び(学び)が小学校での遊びに繋がっている。休み時間でも六年生の中に一年生が入り、ルールを考えながら遊んでいる姿からもそう感じる。 ・生活発表会で、それぞれの思いを伝え合い、一つにまとまって表現している姿から、4月からの成長が感じられた。
・現在は、子育てに悩まれている母親が多いと思う。母親のストレスも大きい。父親の子育て参加やどのくらい手伝ってくれるかで大きく違うと思う。ぜひ、子育てについてのアドバイスをするような講演の機会を大切にしてほしい。
・感染に対する対策は、どうしているか？ ➡年齢に応じた指導、手洗いの徹底や保健だよりでの家庭への情報発信や感染対策、体調回復後の登園などの徹底(手足口病が急激に流行ってしまったことを反省点として改善)をしている。 ・看護師が常駐しておられるのは心強いと思う。
・核家族の家庭が増えている中、華暖さんとの交流の機会がもてたのは、とても良いことである。お年寄りや幼児とはテンポが合う。"自分達のできることをしてあげたい"という気持ちになる。 ・園の絵本貸し出しにプラス、図書館の巡回図書絵本も家庭に貸し出しできないのか？ ・雑草を集め堆肥を作り、土の再生に活かしたもの、良いことだと思う。
・支援ファイルの保護者の開示は？ ➡行っている。 要録や支援ファイル、先生方が一生懸命作成してものを小学校の先生にしっかりと引き継いでいかないといいない。 ・小学校も今見直しの時期。前年度の先生が次年度の目標を立てている。目標がどれだけしっかりと前年度に立てられているかが大切である。
・クラスだより、ようじえんだより、幼児園ニュースも作成しようと思ったら大変だと思う。先生方がオーバーワークになっていないか心配である。文字で伝えることも大切だが、文字を少なくし写真を多くして、それを見ながら家庭で話す機会にしてみようのもいいのでは？ ・小学校就学に向けて、どんな努力をされているか？ ➡まずは、お互いを知る事が大切と考え密な交流をしている。